

大量不当処分弾劾

非協力・順法入隊
減給 87名 戒告 298名
訓告 188名 計 573名

日刊 勤労千葉

86.12.6
No. 2425

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

法案が通過しても、われわれにこそ これからが本格的なたたかいだ！

抗議声明

国鉄三田塚二期着工の十二月六日勤労千葉の二月二十九日から三月十七日までの不当処分紛争・「六一・三ダイ改」阻止の非協力・順法闘争。そして、「六一・三ダイ改」に伴う「業務移管」線路阻止闘争。さらには、十月二〇日から二十九日までの国鉄「分割・民営化」反対、「六一・三ダイ改」阻止の非協力・順法闘争。そしてカバン・ステシカ闘争などを理由にした減給八七名、戒告二九八名、訓告二八八名、合計五七三名にも及ぶ超反動的・大量不当処分を強行してきた。

この大量不当処分は、十一月二八日参議院における国鉄順法法案成立をもって、いよいよ国鉄労働運動解決攻撃が本格化する中で、「分割・民営化」絶対反対の旗をあくまで堅持し闘い抜く勤労千葉の組織破壊をねらった不当きわまりない攻撃であり、われわれは、これを断じ、断つていくべきだ。

直ちに全職場から組織の総力をあげて闘い抜くことを明らかにする。
国鉄法案が暴力的に押しとおされ、差別・選別の首切り攻撃が具体的に開始されようとしている。各代議の悪法・国鉄法案が成立したからといって、われわれが十万人首切り、国鉄労働運動つがし、資産の分捕り、ローカル線切り捨て、賃上げをどうして認められようか。中絶後の「戦後政治の総決算」攻撃の行方、先は改憲・軍事大国化であることは明らかだ。国鉄労働運動の断絶は、その突破口である。

アパイトの国会審議は、遂に「分割・民営化」の矛盾と凶暴な本質を明らかにした。問題は何かと解決していかないのだ。問もなくあらゆる矛盾が、一気に噴き出している。国鉄労働者が自ら立ち止って闘うことによりこそ「分割・民営化」の矛盾は暴きだされ、勝利の展望は切り開かれる。政府・国鉄当局は、何よりも国鉄労働者の決起を恐れている。われわれは、いかなる不当処分攻撃にも決して屈服せず、全国鉄労働者の怒りの長矛陣に立ち、「不当処分紛争」「六一・四・一」分割・民営化十万人首切り阻止へ向けて、全力で闘い抜くものである。

右声明する。

一九八六年十二月六日

国鉄千葉動力車労働組合